

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記

### 新規受託項目

- [12391] ビガバトリン

### 受託開始日

- 2021年6月1日(火)



# ビガバトリン (血中抗てんかん薬濃度測定)

ビガバトリンはウエスト症候群に特化した抗てんかん薬です。

ウエスト症候群は生後3～11カ月の乳児期に発症する難治性のてんかんで、てんかん性スパズム(点頭発作)や脳波所見としてヒプスアリスミア<sup>※</sup>を特徴とし、多くの患者では精神運動発達の遅れを認めます。てんかん発作がうなずいているように見えるため、点頭てんかんとも呼ばれています。

本症は、既知の小児難治性てんかんの中では最も多いとされ、ACTH療法や抗てんかん薬による治療が行われています。

ビガバトリンは、脳内の抑制性神経伝達物質であるγ-アミノ酪酸(GABA)の分解酵素(GABA-T: GABAアミノ基転移酵素)を阻害し、脳内GABA濃度が増加することで抗てんかん作用を示すとされています。

しかしながら、ビガバトリンの投与を受けた約1/3の患者で不可逆的な視野狭窄が起こるなどの重大な副作用が報告されています。血中濃度の確認により、患者個々の有効濃度や忍容性を推定することはビガバトリンの適正使用につながります。

※ヒプスアリスミア: もともとある脳波のリズムや他のてんかんで認めるリズムのある異常脳波とは異なり、多くの棘波、徐波が色々な場所から不規則に発現している状態

## 検査要項

項目コード	12391
検査項目名	ビガバトリン
検体量	血清 または EDTA血漿 0.3mL <sup>*1</sup> [容器番号: 03番→02番 または 容器番号: 14番→02番]
保存方法	冷蔵
検査方法	LC-MS/MS
有効治療濃度	2～36 μg/mL <sup>*2</sup>
所要日数	3～5日
検査実施料	470点 <sup>*3</sup> ([B001] 特定疾患治療管理料「2」 特定薬剤治療管理料1)
主な商品名	サブリル <sup>®</sup>
報告下限	0.5 μg/mL 未満
報告上限	9,990,000 μg/mL 以上
報告桁数	小数1位、有効3桁
備考	<p>*1: 検体採取方法について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・血清の場合: 分離剤入り採血管は使用しないでください。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。</li><li>・EDTA血漿の場合: EDTA-2Na採血管(容器番号14番)にて採血し、転倒混和した後、遠心分離し、血漿成分のみを提出用容器(容器番号02番)に移し、冷蔵にてご提出ください。</li></ul> <p>*2: 日本神経学会「てんかん診療ガイドライン2018」に準拠。</p> <p>*3: てんかん患者であって抗てんかん剤を投与しているものに対して投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定できます。</p>

## 参考文献

日本神経学会: てんかん診療ガイドライン2018.